

## 【決議事項】 第1号議案 令和6年度事業報告の承認について

# 令和6年度 事業報告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

## 1 概 況

観光庁が発表した2024年の日本人の国内旅行消費額(25兆1,175億円)は、過去最高であり、コロナ禍後の回復が着実に進んでいると言える。このような状況のなか、令和6年度は、「富士の巻狩り・狩宿さくらまつり」を始め、「富士山お山開き」、「ミス富士山コンテスト」など、予定していたイベントや事業を実施するとともに、インバウンド需要に対応するための誘客宣伝等を行った。

情報発信事業では、ホームページの充実を目的に、毎月1回観光協会の理事等による打合せを開催し、ホームページの見直しや翻訳機能(現在12か国語で設定)を追加するなど、より見やすく、機能的な改善に努めた。

そのほか、富士山をはじめ、朝霧高原、白糸ノ滝、田貫湖、芝川の田園風景など美しい自然と、富士山本宮浅間大社・大石寺など由緒ある神社仏閣や食に関する情報を発信した。

昨年全面改訂した「るるぶ富士宮」は、観光客や観光関連施設等から好評であるため、1万5千部を増刷した。また、清水港に寄港するクルーズ船は、富士山をはじめ人気の観光地が近く、インバウンド需要もあることから、清水港管理局へ「まちなかマップ(英語版)」のチラシ等の配架を依頼するなど、誘客拡大に努めた。

主要事業の観光誘客・イベント事業では、富士登山については、静岡県側では登山時間や山小屋の宿泊予約の有無などの「事前登録」を実施し、一方、山梨県側では、通行料の徴収や登山者数などに上限を設ける「入山規制」を実施した。静岡・山梨両県の登山規制の対応が異なっていたことから、開山前から制度周知のPRを行い、電話での問い合わせや、観光案内所に訪れる登山者に対して、登山規制の丁寧な説明に努めた。また、夏山登山期間中は、表富士宮口五合目登山口で、登山者への装備や登山指導、観光案内を行う「富士登山ナビゲーター」を配置し、遭難事故及び道迷いの防止に努めた。

観光協会主催事業では、特産品の新規開発事業である「それ、みやげにして宮！」事業、「ふじのみや門前市まつり」及び「あさぎり高原まつり(10月1日からの1か月間)」を開催し、観光協会が総合的な情報発信を担い広く市外に向けてPRした。また、神田川精霊流し、富士山と中秋の名月を愛でる会、田貫湖まつり、白糸の滝のライトアップ、富士山の麓のまちの旅コンテスト等に協力し、観光誘客に努めた。

広域的な取り組みとしては、しずおか富士山利活用推進協議会の地域観光新発見事業

「富士下山 プレミアム・ガストロノミー」の旅行商品の造成に協力した。このツアーは、富士山を「登山」以外の楽しみ方で楽しむ2日間のツアーで、令和7年度に商品化されることとなった。

J R東海との事業協力では、J R東海からの提案を受けて、浅間大社だけでなく、その周辺に少しでも足を延ばしてもらおう仕掛けづくりとしての「美🌸咲良祈願～富士山の湧水とコノハナサクヤヒメに祈る美の願い体験～」の商品化にあたり、全面的に協力した。

観光案内業務については、富士宮市や富士山を訪れる観光客をはじめ、電話による相談、照会等様々な方の利用に対応した。外国人の対応としては、英語を話せる職員が対応するとともに、翻訳機を活用するなど、おもてなしに努めた。また、事務所を兼ねた富士宮駅観光案内所では、各種イベントの情報、旅館、ホテルの紹介、観光施設の案内、絵葉書・カレンダーの販売等を行った。

教育関係では、富士宮北高校の「総合的な探求の時間」に協力し、観光分野の講師・助言を行った。

富士と琵琶湖を結ぶ会事業については、一般市民の募集を行い、近江八幡市長、議長、富士と琵琶湖を結ぶ会との交流会を行うとともに、琵琶湖への富士山御霊水献水式など公式行事を実施した。

白糸ノ滝駐車場の利用状況については、乗用車の利用台数は前年度を上回り、安定した運営状況となった。白糸ノ滝駐車場は観光案内所の機能も併せ持つため、訪れる観光客に休憩環境を提供するとともに、北部地域の観光案内の拠点として観光施設等のパンフレット等を備え情報提供した。また、各種メディアを通じての誘客宣伝による白糸ノ滝への観光PRなどを実施した。